瀬谷の長屋門から和泉川の水辺　2018.10.3　秋山

三ツ境駅9:30―白姫神社―長屋門公園―長屋門―瀬谷貉窪公園―赤澤おとなり橋―めがね橋―六道の辻―中村の辻―宮沢神明社―宮沢（解散・バスで三ツ境駅）

白姫神社

蚕の神が祭神で通称お白様と敬称されています。阿久和養蚕組合の守り神として、明治 42 年（1909）に伊勢神宮外宮の衣の神を奉戴し、そのご神体を蚕としました。その後、昭和 32 年（1957）に養蚕業の衰退により、阿久和町より三ツ境の地に遷座されました。現在では付近の住民から衣の神として信仰が篤く、快癒・息災・出世の祈願が多いと言われています。

白姫神社

長屋門と母屋

長屋門は正面から見て、右側に大きな開口部のある居住部分、左側には納屋土間、さらに土蔵が続くという珍しい形式になっています。建築年代は、明治 17 年といわれ、穀蔵は長屋門より以前に建てられたと思われます。門の右側部分は隠居所として使われたり、養蚕に利用されるなど、幾たびかの改造を経てきているようです。戦後は診療所として利用され、外壁が白い漆喰で覆われていましたが、その後再び座敷にもどされました。

母屋は泉区和泉町にあった旧安西家の建物で、平成2年に横浜市に寄贈されました。横浜市は長屋門公園に移築するために解体を行い、平成4年に長屋門公園に移築されました。安西家は元禄8年（1695）から続いており、天保期には和泉村の名主を勤めていました。

母屋の間取りは、四っ間間取りでしたが、広間型とし、巾一間の押板と大型の囲炉裏を復元しました。建築年代は江戸時代中期のものと思われます。

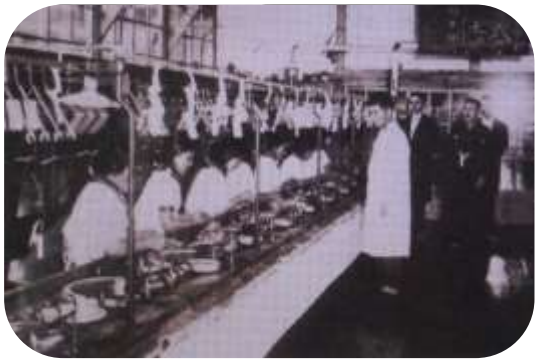
長屋門

母屋

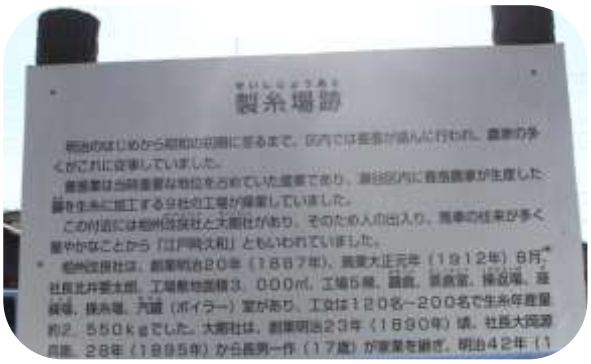
文庫蔵　築年代は明治後期と思われます。蔵の扉は黒漆喰で仕上げが施されており、頑丈な金物で支えられています。内部の太い梁や軸組に丁寧な仕事がほどこされ、施主の財力を示すとともに収納された物の大切さを物語っています。用途は衣類や家財の収納に充てられていたようです。

養蚕と製糸業

明治の中頃から昭和の初期にかけて、米の収穫が少なく現金収入に乏しかった瀬谷村や阿久和村では、多くの農家で養蚕が行われていました。育てた蚕が繭を作って生糸を作る製糸工場も多く誕生しました。阿久和地区の製糸工場は、現在の長屋門公園近くに相州改良（社長北井安太郎、手取り作業者 200 名）と大剛社（社長大岡源兵衛、糸取者 40 名）の 2 社がありました。現在その跡地に製糸工場の説明版があります。



相州改良社で働く女工



説明版

谷戸道祖神

阿久和の谷戸地区は、武相国境（武蔵国と相模国）を隔てて武蔵の国と接しています。そのため村の出入り口にあたる場所に疫病、災難などが入り込まないように、村を守る神様の道祖神が置かれました。

熊野神社

平安時代この辺一帯の森は神聖な場所とされ、南北朝時代に小さな祠を建てたのが前身と伝えられています。江戸時代の阿久和の領主安藤家が保護し繁栄、現在の社殿は明治 6 年（1873）の建立で数々の彫刻で飾られています。毎年9月 19 日の祭礼で、神職による湯立神楽がおこなわれます。

なお安藤家の三代正珍は日本三大仇討ちの一つ伊賀越えの仇討ちに登場します。

谷戸道祖伸

熊野神社

山谷道祖伸

道祖伸は村や町の路傍に建てられ、旅の安全を守り、疫病や悪霊を防ぐ神様が道祖伸です。阿久和村に建てられている道祖伸は、五輪塔で瀬谷区内唯一の珍しいものです。

道祖神のそばに双神塔があります。これは村中の繁栄と子孫が栄えるようにお願いできる男女二体の姿を現した双神塔です。肩を寄せ合い手を組んでいる姿は微笑ましいです。

山谷道祖伸

双神塔

和泉川

瀬谷区を南北に流れる和泉川は、瀬谷市民の森を源流として二つ橋の水辺、宮沢ふれあいの水辺、東山の水辺など六つの水辺があり、整備された水辺では水にふれあい遊ぶことが出来ます。更に近辺には歴史を感じる二ツ橋神明社、宮沢神明社がありファミリピクニックに最適なコースです。

六道の辻

六堂の辻とは仏教でいう地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天上への別れ道のことです。ここは板東三十三カ所観音巡礼八番札所・座間市の星の谷観音への「星の谷道」同十四番札所・横浜市の弘明寺観音への「弘明寺道」の分岐点でもあります。

和泉川の眼鏡橋

六道の辻

宮沢神明社

祭神は天照大神、江戸時代初期の寛永年間（1624～1643）旗本石川六左衛門重勝は配下の上矢部（現戸塚区）村人が、宮沢の荒れ地を開墾して集落を作ったといわれています。

社殿の左側に境内社の白姫神社、右に三峯があり、かって瀬谷区か養蚕や農業が盛んだったことがわかります。白姫神社は養蚕の神様で、三峯神社は農業の神様です.

宮沢神社

二つ橋地名由来の碑

王子往来と神奈川往来

石碑に刻まれている徳川家康の和歌「しみじみと清き流れの清水川　かけ渡したる二つ橋かな」や石橋供養塔安政 3 年（1856）が、二つ橋の由来といわれています。八王子往還と神奈川往来の分岐点示す道標もあります。

中原街道

参考・引用文献

瀬谷ふるさと歴史のさんぽ道　　長屋門公園のパンフレット　　瀬谷区の歴史
郷土史昔の瀬谷